



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

リビア：ベンガジでアンサール・シャリーアが国軍特殊部隊本部を制圧

7月29日、東部のベンガジで、イスラーム過激派「リビアのアンサール・シャリーア」が国軍特殊部隊（サーイカ）本部を制圧した。

30日付『ハヤート』紙によると、アンサール・シャリーア、民兵組織「2月17日旅団」、民兵組織「ラーフッラー・サハーティー旅団」（いずれもイスラーム主義）から成る「ベンガジ革命者シューラー評議会」が声明を発出し、ハリーファ・ハフタル退役少将率いる「尊厳作戦」（イスラーム主義者掃討作戦）の部隊に勝ち、特殊部隊本部を制圧したと発表した。特殊部隊の司令官も、部隊本部から撤退したことを認めた（29日付『リビア・ヘラルド』紙）。アンサール・シャリーアのツイッター・アカウントにおいても、同組織がベンガジの特殊部隊及び「尊厳作戦」部隊に勝利したことを発表している。

病院筋によれば、28～29日の間に少なくとも30人が死亡した。

評価

ハフタル退役少将の民兵組織「リビア国民軍」は、東部でのイスラーム主義者、特に「リビアのアンサール・シャリーア」の活動を根絶するべく、5月に過激派掃討作戦「尊厳作戦」を開始したのだが、これで尊厳作戦はアンサール・シャリーアに敗北したこととなる。これまで、東部では連邦主義者が分離独立を求めて石油ターミナルの占拠を行なってきたように、すでに中央政府の統制が及ばない地域となっていたが、アンサール・シャリーアによるベンガジ陥落により、ますますベンガジは無法地帯となる可能性が高い。

（金谷研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799